

広域医療搬送訓練等での関係機関との連携訓練を踏まえた 机上演習・実習を実施



(パネルディスカッション)

ロジスティクス強化に向けた関係機関との連携について

- パネリスト(第1回)
 - NEXCO東日本
 - 一般社団法人日本産業・医療ガス協会
 - NPO法人日本福祉タクシー協会
 - 公益財団法人東京防災救急協会
 - 公益社団法人全日本トラック協会
 - 石油連盟
- 内容
 - 各組織・団体における災害対応

今後の改善点

- 指揮支援活動(本部活動)とロジスティクス活動のそれぞれに必要な研修内容を精査し、カリキュラムを見直し
- 関係機関との連携のあり方など、DMATロジスティックチームの活動の要領を、広域医療搬送訓練での検証結果などを踏まえ整理、改善



第20回日本集団災害医学会総会・学術集会

災害医療ロジスティックスの 人材育成における課題と取り組み

国際緊急援助隊事務局
大友 仁

国際協力機構



内容

- 災害医療におけるロジスティックスの重要性
- 災害医療におけるロジステックス人材の現状
- 良質なロジスティックス人材確保の課題
- ロジスティックス人材養成のための研修と限界
- 自己研鑽による能力強化

国際協力機構



災害医療におけるロジスティックスの重要性

国際緊急援助隊において創設当初から、輸送能力・資材管理・補給といったロジ能力の強化が必要との認識があったが、そうした分野の専門家を抱えるまでに20年近くの年月を要した。またDMATにおいても、ロジが重要との観点から、医療チームに調整員が配置されている。



ロジにはどのような仕事があって、なぜ重要で、どんな人材が必要なのか？



医療活動及びチームの被災地におけるあらゆる動きを支えるための機能を果たす必要がある。



ロジ要員の管理項目と具体的業務

管理項目

時間管理
人員管理
物品管理
資金管理
安全管理
健康管理
情報管理
その他

具体的業務

情報収集
通信
資機材準備・調達
医療補助
記録
活動・生活環境整備
その他

左記項目を実施する、知識・技能・経験が求められる。

災害医療におけるロジスティクス人材の現状

	DMAT調整員	JDR業務調整員	他国・国際NGO等
各団体系人材特徴	病院内医療関係者 事務職員・県職員 平时に災害関連業務 を行っていることは稀	ロジ専門要員・JICA 職員・海外活動経験 者 活動地となる海外経 験を有する者が多い	ロジ専門要員・軍人・ 専門業者 経験・知識も多く様々 なステークホルダーと つながりがある。
長所 利点	病院勤務のものが多く、 医療に通じているもの が多い。 平时に同じ職場であり チーム内の風通しが 良い。	専門要員には多くの 経験がある。 海外生活経験があり、 交渉能力が高い。	国際物流の知見があ るものが多い。 高い専門性を有してい る。
短所 欠点	災害ロジに精通してい ないケースが多い。 現場経験する機会が 少ない。	専門要員と、急きよ派 遣される要員に経験・ 知識の隔たりがある。 態度がでかい・ 言葉が汚い	各人が特定分野の専 門分野を持っており、 分業のケースが多く人 員が増える。専門外の ケースでは動かない。

ロジスティクス人材養成の課題

近年災害が頻発していると言われているが、災害に派遣される人員は限定的で、人材の経験値をあげることは難しい。また災害に派遣される人材は基本的に本業を持っており、知識・経験を積む機会も限られている。



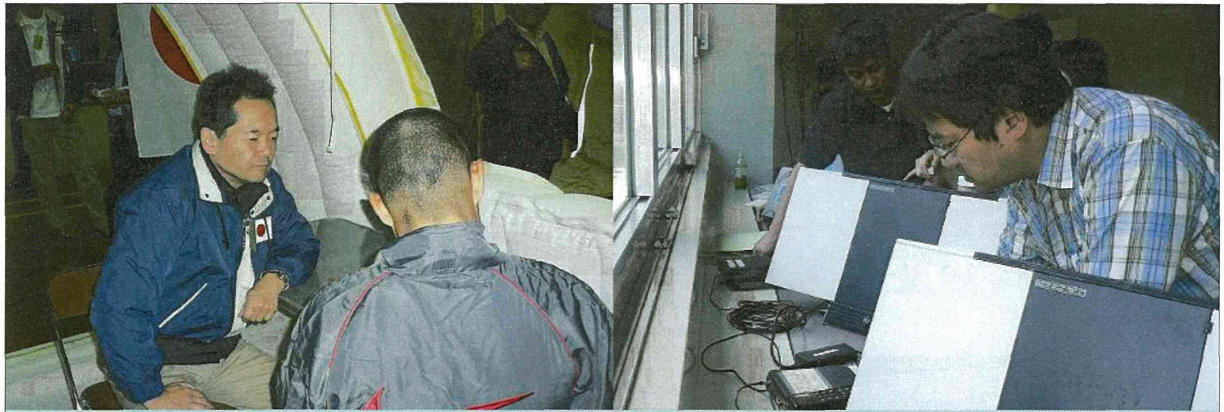
研修・訓練の機会を増やすとともに、質の向上が必要となるが、担当業務の専門分野が多岐にわたり、一人の人材に多くを期待できない。
また、ロジ業務の分業化を進めるとしても、各組織のキャパシティ的に災害時多くのロジ部隊要員を送ることは難しい。

求められる研修・訓練内容

- スフィアスタンダードやHAP基準など各種ガイドライン（共通言語）の理解（具体的に何が役立つかの理解）
- 災害情報・医療ニーズの情報収集能力及び分析能力の向上（チームの行動・活動を迅速に判断するための材料）
- 発電機・ロープ・通信機器・テント等各種機材の取り扱いの習得
- 現場を想定したシミュレーション訓練 例：雨・風・暑さ・寒さを想定（機材やテントが気象条件で受ける影響）
- ロジリーダーの養成訓練（リーダーの的確な指示判断により、経験不足の要員の能力補強が可能）

課題・限界

- 数回の研修・訓練で、担当する領域の広いロジの知識や技能を習得できるか？
- 災害はインパクトはあるものの、頻度はそれほど多いわけではなく、経験を蓄積する機会が限られている。
- ロジ＝雑用とのイメージがあり、発言力及びリーダーシップを持った人材ができにくい。
- 千差万別の表情がある災害においてはシミュレートした訓練が実災害に適合しないケースが多い。（応用力と想像力の問題）
- Low-Tech世代とHigh-Tech世代のギャップ（物の少ない時代を経験した世代は災害時の状況で応用力がある。ハイテク世代は、今後必要となる災害現場での技術革新を支える人材）



JDR導入研修(隊員登録研修)



JDR中級研修(技能研修)



自己研鑽による能力強化

研修・訓練の充実だけでは、ロジ能力の高い人材を養成することは難しい。ロジスティシヤンの平時の自己研鑽により、個々が能力向上に努める必要がある。

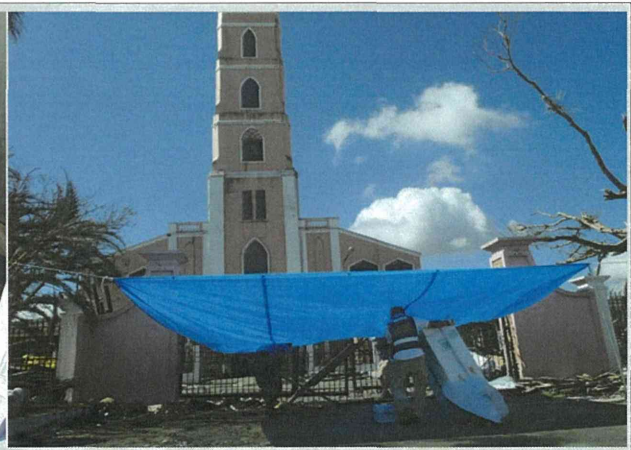
物理的には

平時から使用する機材等に触れることを心掛け、自分の苦手な分野の研修を受講するか専門家に教えを乞う。

思想的には

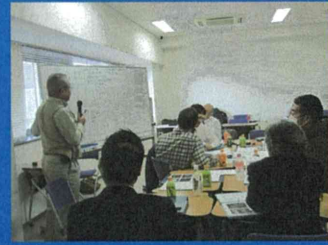
知識や技能を身に着けたとしても、それを活用し応用する能力がなければならない。平時から様々なシチュエーションをイメージトレーニングを重ねる必要がある。

国際協力機構



結語

- ロジ人材の育成のため、質の高い、広範囲な分野をカバーした研修・訓練が必要
- ロジ研修・訓練は現場をシミュレートした内容が必要
- 研修・訓練で養成できる範囲は限定的
- 被災現場のロジを円滑に行うためには、能力を持ったロジリーダーの養成が、幅広い人材の養成よりも容易かつ急務
- 研修・訓練のほかに平時の自己研鑽が重要
- High-Tech世代によるLow-Tech世代の早期駆逐



災害時における医療ロジスティクスの 教育・訓練について

春田 謙・中田 敬司・千田 良・山本 保博
日本災害医療ロジステック協会

1 背景

災害時における医療支援活動にはロジスティクスが確立されていることが必要だが、それを担当する人員は不足しており今後強化のための教育・訓練が求められる。



平成23年3月11日
東北沿岸区域を襲う津波